

Tea Time

Your Healthy life by
advanced medical care

vol. **72** 2020 * WINTER



日本赤十字社医療センター情報誌
Japanese Red Cross Medical Center

日本赤十字社

日赤医療センターの
基本理念

赤十字精神「人道・博愛」の実践

「人道・博愛」の赤十字精神を
行動の原点として
治療のみならず健康づくりから
より健やかな生涯生活の維持まで
トータルでの支援サービスを
提供します

【特集】

「よりよく生きる」
新たな地域医療とともに



【Series】

専門看護師・認定看護師の
知恵袋

[もしも「がん」と言われたら]

ママと赤ちゃんの
HAPPY BIRTH ROOM

[母と子のサポートプラン]

ここからのおと

Topics

[新たな放射線治療の時代へ]

なんでも大事典

[新エリアをご紹介します]

いつも貴重なご意見をありがとうございます



特集

「よりよく生きる」 新たな地域医療 とともに

患者支援センターを強化して

誰もがよりよく生きたいと願う、

そのために今注目されている

“人生会議”をご存じでしょうか。

患者さん自らが望む

治療や生活を実現できるよう

お手伝いするために、

日本赤十字社医療センターは2019年10月に

「患者支援センター」の機能を強化しました。

病気や障がい、それに伴うさまざまな

不安や心配事を軽減し、よりよく生きるために、

いま何ができるのか考えてみませんか。

「人生会議」って？

2020年、新たな年が幕を開けました。お正月にご家族や古くからの友人などと、久しぶりに近況報告などの話をされる機会も多かったのではないのでしょうか。そのような場で、「人生会議」をされた方ははいらっしゃるでしょうか。もしものときのための「人生会議」です。

「人生会議」とは、「自分自身の人生の最終段階においてどんな医療やケアを受けたいか」を前もって考え、ご家族や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組みのことです。

これは、厚生労働省が普及・啓発をしているもので、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）と呼ばれています。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」という愛称になったところです。

自身が選択する治療・ケア

「あなたは、もしものこと」を考えたいですか」と問いかけるのは、日本赤十字社医療センターの酒井敬介副院長。誰もが、いつなにか命に関わる大きな病気やケガに直面することも限りません。

「命の危険が迫っているとき、約7割の方は治療やケアについて、自分の意思で決めたり、希望を家族や医師に伝えることができている」とい

うデータがあります」と酒井副院長は指摘します。これは厚生労働省の調査結果にも示されています。

日ごろから、あなたが、大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望むかを、まず自ら考えること、そのうえで、自分自身の意思をご家族や信頼できる友人、医療・介護従事者に伝えておくことが重要になります。

なぜなら、日ごろからこうした話し合いを持つことが、もしものときの「自ら望む治療・ケア」の実現につながるからです。このようにすると、病院選びから治療に至るまで、自身で選択できるようになるのです。



日本赤十字社医療センターの酒井敬介副院長は「よりよく生きていくには、元気なうちから考えなければなりません」と指摘する

「話し合い」を支援する

では、具体的にどのような話し合いを進めれば良いのでしょうか。

こうした話し合いのお手伝いができるのが、2019年10月に機能強化した「患者支援センター」です。酒井副院長は「こうしたナーバスな話は患者さんが主体であることが第一であって、患者さん抜きで決定してはなりません。そして、肝心なのは話し合うタイミングも患者さん主体であることです」と話します。また、ご家族や医師や看護師などが、

患者さんに考えることを急かせたり、促したりしてはならないと言います。

「ご家族ができることとは、元気なうちからその方の人生に興味を持ち、どんな話にでも耳を傾けること。そして、今後のことを話したいと言われたら、院内外問わず第三者である医師や看護師などの立ち合いのもとで話してもらおうこと。デリケートな問題ですので十分な配慮が必要です」。(酒井副院長)

患者さんがよりよく生きるために、私たちは、さまざまなことに向けています。

STEP 1 考えてみましょう

大切にしていることは何かを考える

STEP 2

信頼できる人は誰か考えてみましょう

あなたが信頼していて、いざという時にあなたの代わりとして受ける治療やケアについて話し合ってほしい人

STEP 3

主治医に質問してみましょう

- ①病名や病状、予想される今後の経過
- ②必要な治療やケアについて
(現在病気療養中ではない方はこの項目は省略)

STEP 4

話し合みましょう

「治療が不可能な病気」になり回復が難しい状態になったときのことを考えてみます

STEP 5

伝えましょう

話し合いの内容を医療・介護従事者に伝えておきましょう

出典：厚生労働省「ACP人生会議」から引用・作成

急性期医療機関としての役割を果たす

急性期医療機関とかりつけ医

地域包括ケアという言葉をご存知の方も多いでしょう。2005年の介護保険法改正で地域における「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」の5つのサービスを一体的に提供できるケア体制を構築しようというのが、医療介護連携システムの「地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケア）」です。

「急性期医療機関」として、重症または緊急の患者さんの治療に集中する役割を担うこととなりました。重症の患者さんには、先進・高度医療により治療を行い、緊急の患者さんには24時間体制の救命救急センターが対応できるように態勢を整えています。

一方、症状が安定した患者さんや急を要さない患者さんに対しては、ご自宅の近くにある医院、診療所、クリニックが「かかりつけ医」として、相談しやすく身近に感じる医療を提供しています。



日本赤十字社医療センターは地域の急性期医療を担います

救急対応



受診



川上潤子看護部長

「急性期医療機関の当センターとしては、日ごろから患者さんの診察を行い体調をよく知っている『かかりつけ医』との連携は重要で、ますます強化していかなければなりません」と言うのは看護部長の川上潤子さん。

「患者支援センターの強化はそのた

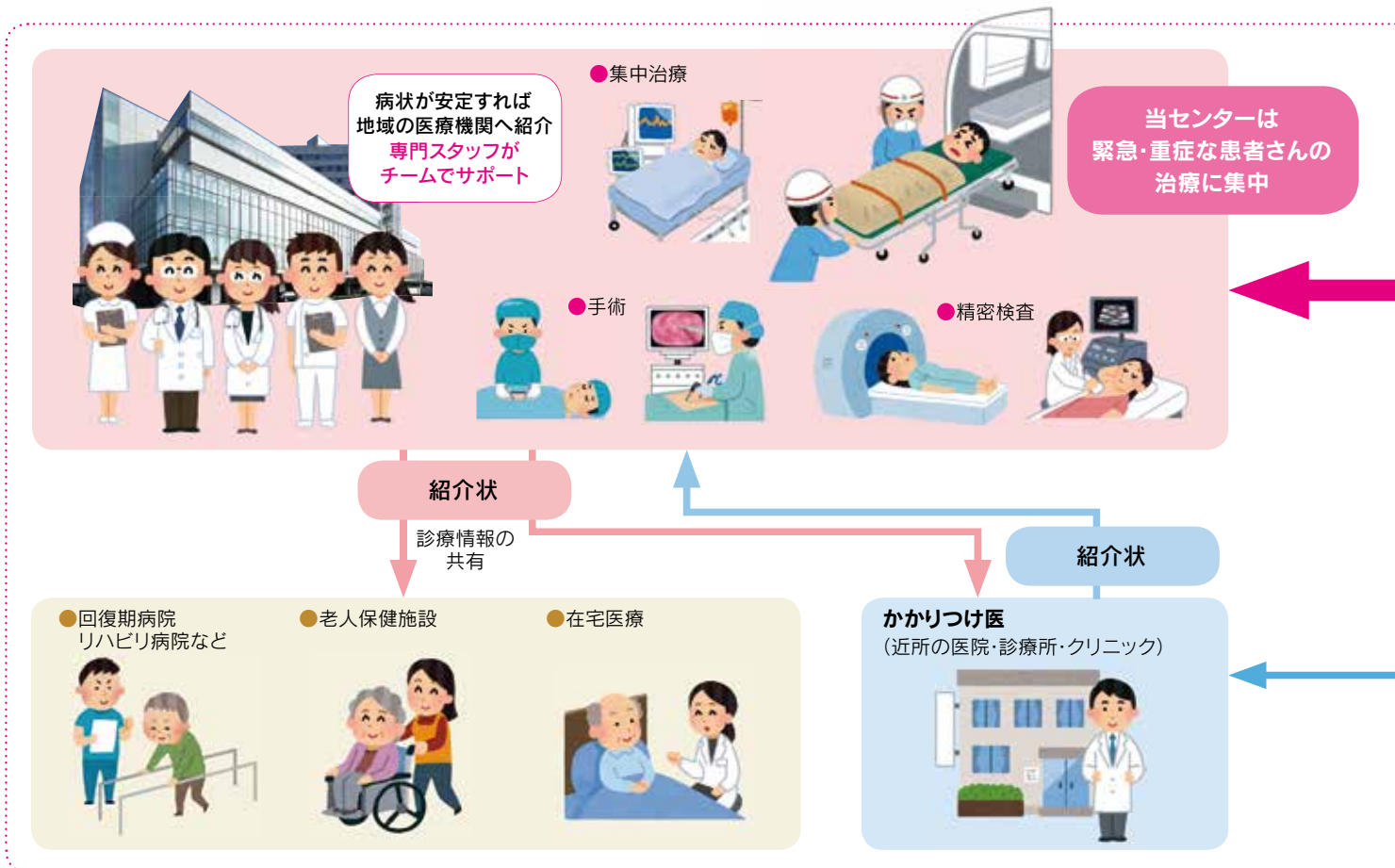
めであり、チーム医療における連携という点では、患者さんのニーズに十分に対応できる態勢です」と川上さんは言います。

チーム医療とは、医師だけでなく、看護師、薬剤師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、臨床検査技師、健康運動士、事務職員など、病院内外の多くの職種が患者さんのためにチームを編成して治療を行うことです。

「このように他の医療機関との連携や、当センター内での連携を強化するのが患者支援センターであり、なによりも、患者さんやご家族が不安を感じることなく治療に専念してもらうためにあるのです」（川上さん）

地域と密な連携により患者さんの望む治療やケアを実現する

先進・高度医療を行っている大きな病院での診察を願う患者さんが多いのも事実です。しかし、通院の負担を考えると、自宅近くの医院等があります。普段は近くの医院等で治療を受け、高度な検査が必要になったり、病状が急変したりしたときには、すぐに当センターで



*ご質問・ご相談等がございましたら、お気軽におたずねください。患者支援センター TEL03-3400-1311(代表) 平日 9:00~16:30

特集 「よりよく生きる」新たな地域医療とともに



大林恵子看護師長

の精密検査、手術を受けられるというシステムの推進をめざします。この連携を速やかにするためにも、患者支援センターは機能しています。「当センターでは、患者さんが退院後もよりよいサポートが受けられるよう連携先の医師や訪問看護師などの医療者、ケア提供者の方々と顔が見える関係を心がけ、定期的な意見交換会、交流会を行っています」と、退院支援課長（看護師長）の大林恵子さんは話します。

また、疾病によって異なりますが、現在の医療制度では、急性期医療機関で長期入院はできません。そのため、短い入院期間では退院後の自宅での生活に不安を抱く患者さんや家族の方もいます。そこで、安心して生活できる退院後の療養場所を早めにとっていく必要があります。

「2025年問題といわれる、団塊の世代が後期高齢者になるまで、あと5年。日本の5人に1人が75歳以上となる『超高齢社会』は目前に迫っています。そのためにも、当センターはあらゆる問題に対処し、急性期医療機関としての役割を果たします」と酒井副院長は言います。

では、患者支援センターとはどうあるべきなのでしょう。



高木美香ソーシャルワーカー

「もう少し体力をつけたり、リハビリテーションをしたりして自宅退院を希望する方もいますし、自宅での生活が難しい方もいます。希望する場所で生活できるように、私たちスタッフは取り組んでいます」と話すのは、ソーシャルワーカーの高木美香さん。

地域連携の二環としてソーシャルワーカー同士で集まる会合もあります。

かかりつけ医との連携強化のため 患者支援センターを移転して

「かかりつけ医」を紹介します

「かかりつけ医」とは、あなたの生活習慣を把握して、ちょっとした不調のときでも相談ののってくれる医師のことです。そして、いざというときは、あなたに合う専門医や総合病院を紹介してくれます。

当センターは、あなたのかかりつけ医になっていただく医院、診療所、クリニックを渋谷区、港区、目黒区、世田谷区を中心にご紹介し、必要に応じて他の地域や全国の病院とも連携をとっています。

患者さんの情報やこれまでの診療経過などはかかりつけ医の先生から



宮上亮子副室長



提供されますので、専門医のいる当センターでの受診の待ち時間短縮につながり、患者さんの負担が少なくてすみます。かかりつけ医のメリットは、ここにもあります。

また、当センターでの治療が終わり、病状が安定した方には、原則として地域の医院等で経過を診ていただくこととなります。そのときにかかりつけ医をお持ちでない患者さんには、通院しやすい医院等を紹介しています。

この「かかりつけ医」の紹介機能を加えることで、今回、当患者支援センターの機能を強化しました。

よろず相談も対応します

「治療や入院のこと、どんな困りごとでもお立ち寄りください。院内にいる専門のスタッフを紹介し、相談ごとにお応えします。当センターの正面入口に移転して、どなたでも気軽に入れるようにしました」と語るのは、医療連携・患者支援推進室副



患者支援センター入口

室長の宮上亮子さん。

治療を進めていくうちに、介護保険や医療費のこと、治療をしながら生活や仕事はどうすれば続けられるのかなど、さまざまな疑問を抱える方も多いことでしょう。

「治療中は、漠然としたお悩みもあるかと思えます。こんなこと、忙しいドクターや看護師さんに面と向かって聞けない、とおっしゃるご家族もいます。そんなよろず相談を受けているのが、患者支援センターなのです」と宮上さん。



どのようなことでもスタッフにご相談ください



患者支援センター入口の自動ドアに入って、すぐの「受付」へお越しください

現在、患者支援センターは先述したかかりつけ医の紹介から、医療費や生活費などの経済的な相談、障害者手帳や難病医療の申請方法、障害年金、在宅医療や訪問看護、転院先や福祉施設の相談、介護保険の利用、がん相談など、さまざまなことを受けけています。

ご自身やご家族が望む治療・ケアを実現し、よりよく生きるためにも、不安や心配事を少しでも取り除き、治療に専念できるようにお手伝いします。

あなたの体調の
変化に気づく、
身近な医療の専門家
かかりつけ医を持ちましょう

日頃の健康状態を知っているため適切な
診断で専門医に診察・検査を依頼。素早く対
応できます。また、かかりつけ医の紹介状・
予約があるためスムーズに受診できます。
※紹介状があれば初診時に5,000円(税別)がかかりません。

かかりつけ医
(近所の医院・診療所・クリニック)



- 通いやすい
- 待ち時間が短い
- 体調をよく知っている
- 相談しやすい



日本赤十字社医療センター



病状が安定すれば
かかりつけ医に報告
また、地域の医療機関へ紹介
専門スタッフが
チームでサポート

紹介状

診療情報の共有

紹介状

- 回復期病院
リハビリ病院など
- 老人保健施設



* ご質問・ご相談等がございましたら、お気軽におたずねください。 患者支援センター TEL03-3400-1311(代表) 平日 9:00~16:30

特集 「よりよく生きる」新たな地域医療とともに

* 患者支援センター はココです

患者支援センター入口の自動ドアに入って、すぐの「受付」へお越しください

相談内容

- ◎ かかりつけ医の紹介 ← **新機能**
- ◎ 入院・退院支援
- ◎ 地域医療連携
- ◎ 在宅医療相談
- ◎ 介護・療養生活などの相談
- ◎ 社会保障制度・福祉サービス紹介
- ◎ 医療費・生活費などの相談
- ◎ がん相談 など

受付時間: 平日 8:30~16:30 相談は無料です

日本赤十字社医療センター 患者支援センター

TEL03-3400-1311(代表)

電話でのお問い合わせ時間: 平日 9:00~16:30



知恵袋

12

当センターには、日本看護協会が認定している専門看護師12人、認定看護師21人がおり(2019年11月現在)、それぞれの分野に特化した看護ケアを患者さんに提供しています。本連載は、私たち「専門看護師」「認定看護師」を皆さんによりいっそう知っていただくため、耳寄りな情報を「リレー」形式でお伝えします。

心の負担をどうするか

「2人にひとりがかんになる時代」。多くの方がこのフレーズを耳にされているのではないのでしょうか。長寿や生活環境、生活習慣などの変化により、いまやがんは誰もがかかりうる、ありふれた病気なのです。

それでは、「がん」と言われたら私たちの心にはどのような変化が起こるのでしょうか。「まさか自分が…」と信じがたいような衝撃を受けたり、「なぜ自分が…」 「天罰が下ったのか」と原因を追求したり自分を責めたり、さらにはこれからの人生や生活が不安でたまらず、ふさぎこんでしまうこともあるかもしれません。「がん」という言葉は心にとても強いストレスを与えます。ただ、これらの反応はストレスから心を守ろうとする自然な反応でもあるのです。

とはいえ個人差はありますが、現実を受け止められるようになるまでには、数週間以上かかる場合もあります。現実には心が追いついていなくても、目の前では病気の状態や検査方法



もしも「がん」と言われたら



がん看護専門看護師
鏡 朋子
Tomoko Kagami



専門の看護師に相談することができます。

治療方法などの説明が展開され、あの期間内に決定しなければならぬことが多いのです。動揺や不安が強い中で重要な決定をしていくのは、想像以上に心に負担のかかる作業です。

とりに抱え込まず、信頼できる人や大切な人に打ち明けて、サポートを上手に得ていきましょう。例えば医師から説明を受けるとき、自分では冷静できちんと理解できなかつても、

あともう一度思い出そうとすると案外覚えていなかったり、理解できていないことも珍しくありません。検査の結果や治療方法などの重要な説明を聞く場合には、信頼できる誰かに同席していただくことをお勧めします。

もし身近なところに頼れる人や相談できる人がいない場合や、新しい人に情動的に相談することが難しい場合には看護師を活用することも一つです。

当医療センターではがんに関する教育を受けた専門看護師や認定看護師が、がん相談支援センターや化学療法室、がん看護相談、緩和ケアチーム等に所属し、外来や入院を問わず、多くの場面で皆さまの相談や支援を行う体制を整えています。状況に応じて他分野の看護師や他職種とも協働しながら、少しでも皆さまのお力になれるよう支援させていただきます。

信頼できる人を探すこと

がんと告げられて動揺や不安が強く長く続く場合には、その苦しみをひ

日本看護協会が「質の高い医療の提供のために運営している資格制度に、「専門看護師」と「認定看護師」があります。【専門看護師/CNS: Certified Nursing Specialist】13の専門分野において複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族等に対して水準の高い看護ケアを提供し、さらに保健医療福祉の発展、看護学の向上を図る看護のスペシャリスト。【認定看護師/CN: Certified Nurse】21の専門分野において熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護を実践する看護師。

ママと
赤ちゃんの

HAPPY BIRTH ROOM

周産期の母乳育児支援

38



生後1カ月までの母子を対象とした宿泊型支援

「母と子のサポートプラン」



5A病棟 助産師
鈴木麻衣子
Maiko Suzuki

助産師が寄り添う

「母と子のサポートプラン」

「母と子のサポートプラン」(産後ケア入院)を、日本赤十字社医療センターでは2019年10月に新規開設しました。これは、出産でのご入院を終えてから産後1カ月以内のお母さんと赤ちゃんにご宿泊いただけるサービスです。

出産を終えたお母さんは、家事や育児をご家族に任せて身体をゆっくり休める必要があります。しかし、近年ご家族が仕事や介護で十分サポートを受けられない方も多くいらっしゃいます。そのようなときにご利用いただくことで、食事や掃除などの家事負担なくゆったりと育児をしながら身体の回復を待つことができます。

また、「初めての育児でまだ赤ちゃんとの生活に慣れない」「産後の体力が思うように回復せず、赤ちゃんの世話ができるか心配」「母乳で育てたいけれど、一人で授乳をするのはまだ不安」など退院後の生活に不安を感じる方もいらっしゃいます。このような時は出産での入院に引き続いてのご利用をお勧めし「これならできるかも」と生活に自信を持っていただけるよう、助産師が寄り添いサポートしています。

安心安全でゆったりとした生活を

当センターで出産された産後1カ月以内の方であれば、最長6泊7日まで、どなたでもご利用いただけます。ご自身の体調やご家族のサポート状況などに合わせてご出産後にお申し込みください。

全4室個室で、パートナーのご宿泊も可能です。本格的にご自宅での生活が始まる前にパートナーに赤ちゃんとの生活に慣れていただく機会にもなります。

ここでの生活にはとくにスケジュールはありません。赤ちゃんのペースに合わせて、心ゆくまで赤ちゃんのかわいさを味わってください。必要に応じて、助



産後ケア病室



ご提供できる生活用品



オーガニックのアメニティセット



クッション(貸出)



病棟の廊下

産師が授乳や沐浴を見守り、お手伝いします。さらに母乳分泌促進やリラクゼーションのためのオプションケアも行っています。

もちろん気になることがある場合には、産科・新生児科医師の診察などバックアップ体制も万全です。

ご利用いただいた方から「ゆったり育児できた」「回復や育児に慣れるための必要な時間だった」などの声をいただいています。助産師を身近に感じながらゆったりと育児できる環境を整え、産後のお母さんと赤ちゃんが退院後も健やかに過ごせるよう今後も支援していきます。

身体

椅子ストレッチ

椅子に腰かけていると、足の付け根が曲がりっぱなしで、筋肉が硬くなります。足の付け根から体の横を伸ばす体操です。

①椅子に横向きに座り後ろ側の足を後方へ伸ばす。



足の付け根が伸びる

②可能であれば、手を上げて体を横に倒す。



付け根から体の横が伸びる



健康管理センター
健康運動指導士
渡辺久美
Kumi Watanabe

脳

足踏みしながらじゃんけん

頭と体を一緒に動かし、脳の活性化をはかりましょう。

①リズムよく足踏みする。②足踏みをしたまま、足踏みのリズムの6拍目で、左手が勝つようにじゃんけんをする。



<アレンジ>

- ①4拍目に1回じゃんけんをする。
- ②2拍目に1回じゃんけんをする。



Topics



新たな放射線治療の時代へ

トモセラピーの本格稼働にむけて

*精度の高い放射線治療に注目

近年、がん治療における放射線治療がめざましく進歩しつつあります。がんの3大治療法は「手術」、「薬物療法（抗がん剤治療）」、「放射線治療」ですが、そのなかでも放射線治療は手術のように臓器を取り除いたりしない身体に優しい治療です。全身麻酔を伴う手術や副作用がある抗がん剤治療などと違い、高齢の患者さんに適応されることが多くなりつつあります。

放射線治療分野における技術的な進歩は近年加速しており、精度の高い放射線治療が国内外で広く行われています。ほとんどのがんは無制限に大量の放射線を照射すれば治ります。しかしながら、がんの周囲にある正常な臓器が放射線で障害を受けてしまうため、これではがんの放射線治療が成立しません。

そこで、精度の高い放射線治療が注目されているのです。日本赤十字社医療センターでは2008年からサイバーナイフによる定位放射線治療を導入しており、本治療の実績は国内でもトップクラスです。

*高精度放射線治療とは

このたび強度変調放射線治療 (IMRT: Intensity-modulated radiation therapy) の専用機器であるRadical(リニイザクト:「トモセラピー」の最新機)が導入されました。

IMRTは正常な臓器への放射線被曝を可能な限り低く抑え、標的(腫瘍)に対して有効な線量を投与することができる治療法で、前立腺がんや頭頸部腫瘍、胸部の腫瘍など、さまざまながん種に応用することが可能です。2010年から限局する固形がんすべてに対する治療として保険適用されています。治療回数は従来の放射線治療と同様に30〜40分割で施行されることが多いのですが、腫瘍の大きさや存在部位によっては短期間での治療も可能です。現在、放射線科ではトモセラピーの早期本格稼働を目標に、スタッフ一丸と



日本赤十字社医療センター



新エリアをご紹介します！

2019年秋OPEN 「紹介状受付」コーナー

他院からの紹介状・CD-Rをお持ちの方が診察をスムーズに進めていただくために、1階の「初診」窓口の隣に「紹介状受付」窓口を設置しました。

他院から当院あての紹介状(診療情報提供書)・レントゲン画像等が入ったCD-Rをお持ちの患者さんは、電子カルテへの取込みを行いますので、診察前に「紹介状受付」にお出してください。

お知らせ



レストラン「ピアンモール」オープン

1階レストランの改修工事のため、お食事の提供ができません。ご来院の皆さまにはご迷惑をおかけしておりました。このたび同じエリアに、レストラン「ピアンモール」がオープンしました。お食事のメニューも一新しておりますので、ぜひご利用ください。



場所 1階レインボースクエア内(売店の隣)
営業時間 平日 8:30~19:00(18:30ラストオーダー)
土日祝 10:00~16:00(15:30ラストオーダー)

ご寄付

日本赤十字社医療センターの病院事業資金としてご寄付いただき、誠にありがとうございました。皆さまからの貴重な寄付金は、病院運営や救護資材の備蓄などのために大切に使用させていただきます。

ご芳志への感謝の気持ちを込め、ご芳名を紹介させていただきます。なお、許可をいただいた個人、法人および団体名のみを掲載しています。

吉田忠徳さま
城所賢一郎さま
*順不同



*冬編 vol.14 *

ここからのおと

「心」と「身体」と「脳」の健康のために

脳の活性化は、

心や身体の健康のためにもよいのです。

健康な毎日を送るためのヒントをご紹介します。

心

目と脳を休める

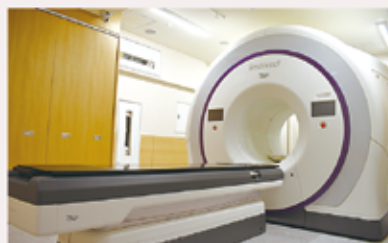
目が疲れたら、「遠くの緑を見る」とよいと言われています。これは遠くを見ることで副交感神経が働き、目だけでなく、脳もリラックスするからです。

しかし、現代人の生活はどうでしょう。パソコンやスマートフォンを見る時間が長く、近くのものにピントを合わせるようになりました。緊張しながらの仕事は、交感神経を高ぶらせ、目の疲れにつながります。

つまり、目の疲れは自律神経の乱れも関係しています。目の疲れを感じる方は、ゆっくりと、遠くの自然を眺める時間も必要です。



サイバーナイフ



トモセラビー

なつて準備を進めています。トモセラビーに関するご相談については、1階のがん相談支援センターでお受けしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。



いつも貴重なご意見をありがとうございます

日本赤十字社キャラクター
「ハートラちゃん」

皆さまのご意見を
病院内の環境改善に
役立ててまいります！

ご意見箱は
院内に15カ所
(外来6カ所、入院病棟各フロア1カ所)
にあります。

こんにちは。ご意見箱です。

リニューアルされたレストランや新設された設備の使い心地はいかがでしょう。日本赤十字社医療センターでは皆さまに自由にご意見をお寄せいただけるよう、院内各所にご意見箱とアンケート用紙を常置している他に、年に一度、直接皆さまに用紙をお配りしてアンケート調査を行っています。ぜひご意見をお聞かせくださるようお願いいたします。

先日、院内のゴミの分別が居住区のルールと違って分かりにくいというご指摘を受けました。病院から出るゴミはすべて「産業廃棄物」となります。厚生労働省が指定するマニュアルにしたがって専門の業者に処



12A病棟ラウンジ内に置かれたご意見箱

理を行っていただかなければなりません。院内でゴミを捨てる場合は、一般のご家庭のゴミの分別とは異なるルールとなります。紛らわしいのですが、ご協力くださいますようお願いいたします。

診察のご案内

日本赤十字社医療センター 代表 TEL 03-3400-1311

●受付時間 初診の方：8:30～15:00 再診の方：7:50～15:00

*受付時間は診療科によって異なりますので、事前に診療科受付へお問い合わせください。また、「かかりつけ医からの紹介状」をご持参いただくと、初診時に係わる保険外併用療養費 5,500 円が免除されます。

●急病の場合：曜日、時間に関係なく、救急外来で診察します。ご来院の前にお問い合わせください。

●診察カード：全科共通で永久にご使用できます。ご来院のときは必ずご持参ください。

●健康保険証：ご来院のときに確認していますのでご持参ください。また、保険証の更新・変更時には必ず受診科受付にご提出ください。

●院外処方せん：全国の保険調剤薬局でお薬をお受け取りください。

●外来休診日：土曜日/日曜日/祝祭日/年末年始：12月29日～1月3日/
日本赤十字社創立記念日(5月1日)

交通のご案内



JR渋谷駅東口から 約15分
都営バス「学03」系統 日赤医療センター行 終点下車

JR恵比寿駅西口から 約10分
都営バス「学06」系統 日赤医療センター行 終点下車
港区コミュニティバス「ちいばす」

青山ルート「日赤医療センター」下車 徒歩2分



地下鉄(東京メトロ)日比谷線広尾駅から 徒歩約15分



首都高速道路3号線

[下り] 高樹町出口で降り、すぐの交差点(高樹町交差点)を左折
[上り] 渋谷出口で降り、そのまま六本木通りを直進。青山トンネルを抜けて、すぐの交差点(渋谷四丁目交差点)を右斜め前方に曲がる。東四丁目交差点を直進し、突き当たり左坂の坂を上る



赤十字全般に関すること<http://www.jrc.or.jp/> 日赤医療センターに関すること<http://www.med.jrc.or.jp/>
*外来診療の最新スケジュールは、ホームページでご確認ください。*本誌のバックナンバーはPDF版でご覧いただけます。

モバイル
サイトは
こちら▶

